

乙 貞

おと

さだ

第153号 通巻27巻 第2号
2007年7月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
Tel. Fax 077-585-4397

〒525-0212
守山市服部町2250番地

はじめに

本格的な夏を目前に、市内各所で発掘調査が進められています。近況をお届けいたします。

☆ 発掘調査だより ☆

1 欲賀南遺跡の調査 (調査中)

区画整理工事、宅地造成工事に伴う欲賀南遺跡の発掘調査は、現在、平安時代後期から鎌倉時代にかけての集落跡を調査中です。これまでに井戸や溝、土坑、建物の柱穴群などが検出され、多量の土器や木製品などが出土しています。木製品には箸や曲物(容器)といった生活用品の他、球形(直径5cm)に削られた「毬杖」の玉と見られるものもあり、当時の人々の生活を考えるうえで貴重な資料が見つかってきています。



出土した「毬杖」の玉

2 3 4 5 6 7 8

毬杖は奈良時代に中国から伝わった遊びで、平安時代後期頃にはおもに子供の正月の遊びとして庶民に広まりました。木の枝をスティック状に加工した棒で木製の球を打ち合う遊びで、ホッケーのように徒歩で行なうものとポロのように馬に乗って行なうものがあったとされますが、江戸時代にはすたれてしまったため、詳しいルールはわかりません。ただ、独楽(胡魔)や羽子板(胡鬼板)と同じく、中国では鬼神祓えの故事につながるといわれており、まじないなど呪術的要素が強い遊び(毬杖の玉を鬼の頭や目玉に見たて棒で打つことでけがれを祓ったとする考えもあります。)だったと考えられます。なお、今も行なわれている左義長は「三毬打」の意味で、三本の毬杖を立てて門松などといっしょに燃やしたのが始まりといわれているそうです。私たちの身近にある多くのことのルーツが中世(鎌倉時代、室町時代)にあるのですね。(小島)

【参考資料】 ちよつとれきしがく「毬杖つてなに」 広島県立歴史博物館 2002年
加藤隆也「博多の日常」福岡市博物館 2002年
「中世のむら探検」滋賀県立琵琶湖博物館 2002年



「西行物語絵巻」(二世紀中葉)に描かれている子供のようなすを描き起こした。三人と二人が組を組んで対抗しており、男児だけではなく、女児もいっしょに遊んでいたことが分かる。

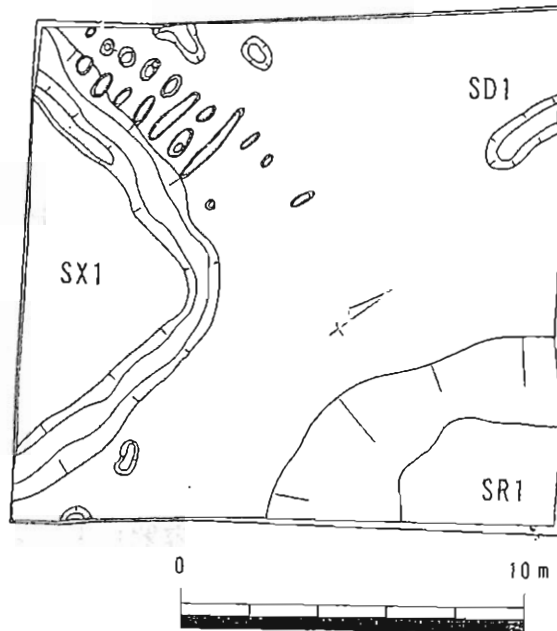
(引用) 河原純之編『古代から中世へ』(古代史復元10)講談社 1990年より

2 赤目遺跡(第6次)の調査 (調査終了)

勝部町二丁目字坊ノ内の水田地においてマンション建築工事に先立ち5月中旬より約2週間かけて発掘調査を実施しました。その結果、方墳(SX1)、溝(SD1)、ピット、土坑、旧河道(SR1)などが確認されました。SX1は、一辺10mを超える方墳(四角いかたちをした古墳)だったと考えられます。溝から須恵器の坏身、坏蓋、高坏、土師器の壺、高坏などが3地点に集中して出土しました。SD1からは、少量の「赤色顔料」とともに一個体分の壺の破片が出土しており、この壺に「赤色顔料」が入っていた可能性が考えられます。これらの遺物の時期から方墳、溝は、古墳時代後期と推定されます。隣接する道路部分の調査では、15、16世紀の建物跡などが確認されていますが、今回の調査によって周辺には、古墳時代の遺構も存在することが明らかになりました。(大岡)

赤目遺跡

平成2年(1990年)、勝部町字下赤目で実施した調査で、奈良時代の土師器や須恵器が発見されたことで遺跡があることが判明した。これまでの調査で、古墳時代から鎌倉時代にかけての溝や旧河道などが検出されている。赤目遺跡の北東側には、古墳時代中期から後期にかけての古墳群や集落跡で有名な吉身北遺跡が所在していて、関連が注目される。



赤目遺跡第6次調査平面図

3 高関遺跡(第5次)の調査 (調査終了)

宅地造成に先立つ事前の試掘調査で、遺構が検出されたため遺構が確認された部分の発掘調査を実施しました。その結果、溝と柱穴を検出しました。溝は、1条を除いた他は、南北方向に延びており、土師器や須恵器の破片が出土しています。時期は古墳時代後期と思われます。(畑本)

4 金森東遺跡(第46次)の調査 (調査終了)

金森町土地区画整理地内3街区(3号地)において建売住宅の新築工事が予定され、事前に発掘調査を実施した結果、平安時代以降の旧河道(水路)が1条検出されました。(川畑)

5 金森東遺跡(第47次)の調査 (調査終了)

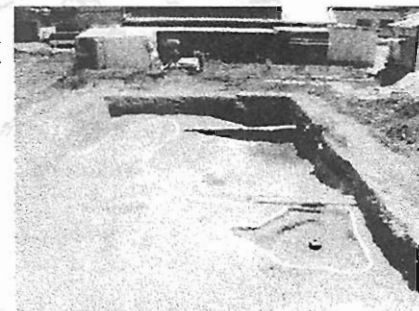
金森町土地区画整理地内16街区(13・14画地)において共同住宅建築に先立つ調査を実施しました。その結果、大きく蛇行する溝と土坑を検出しました。溝からは古墳時代後期の土師器や須恵器が検出され、土坑の中央部からは甕(土師器)が出土しました。(畑本)



高関遺跡(5次)調査



金森東遺跡(46次)調査

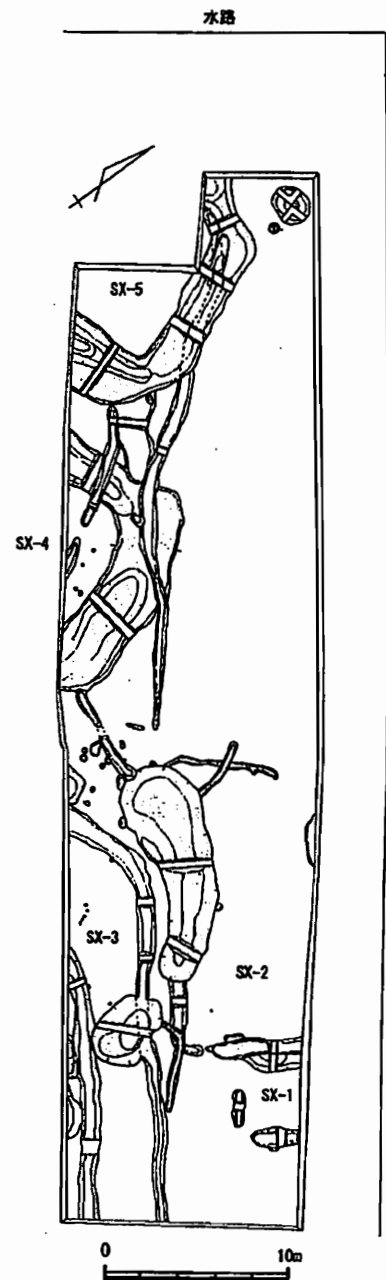


金森東遺跡(47次)調査

6 二町鏡遺跡(20次)の調査 (調査終了)

二町町地先において、共同住宅建設に伴い5月7日から約1ヶ月、発掘調査を実施しました。調査の結果、方形周溝墓と思われる遺構(最大5基)と溝、ピットが検出されました。調査地は東に地形が落ちていて、肩口に数条の溝が走っています。溝からは、黒色土器片や須恵器片が出土しました。また、溝に切られて複数の不定形の土坑(SX-3)が検出されています。平面ではほぼ円状に配置されていることから円形周溝墓の可能性ががあります。SX-3の周溝の底からは、大量の炭と弥生時代後期の壺が出土しています。SX-1と一辺が約7mの規模を測るSX-2は、遺物量が少なく時期は不明です。SX-4とSX-5(一辺がともに約8m)は弥生時代後期から古墳時代前期にかけての方形周溝墓と思われる。

二町鏡遺跡は、これまで中世の屋敷跡が検出されることが多かったのですが、周辺には30基以上の方形周溝墓が検出されている塚之越遺跡や、縄遺跡があります。今回の調査で二町鏡遺跡にも方形周溝墓群が形成されていることが判明しました。(森山)



▲ 二町鏡遺跡 下層平面図

歴史入門講座の開講 お知らせ！！

守山市内には、たくさんの遺跡や文化財があります。市立埋蔵文化財センターでは、身近な文化財の理解を深めるため、また、文化財を通じて、これからの守山を考えるために入門講座を開講しています。本年度は「湖南の古墳時代」をテーマにして発掘調査の最前線に立つ研究者を迎え講座を進めています。6月に第1講を終えたところですが、第2講以降、まだ若干の余席もあります。受講希望の方がございましたらセンターまで、お問い合わせください。

(第2回)7月21日(土)「近江の出現期古墳」 (第3回)8月18日(土)「古墳から見た近江の古墳時代」

講師 植田文雄さん(東近江市教育委員会)

講師 細川修平さん(滋賀県教育委員会)

(第4回)9月15日(土)「埴輪の世界」

(第5回)10月20日(土)「須恵器のはなし」

講師 辻川哲朗さん((財)滋賀県文化財保護協会)

講師 角 健一さん(野洲市教育委員会)

(第6回)12月15日(土)「古墳の終焉—近江の終末期古墳—」

講師 佐伯英樹さん((財)栗東市文化体育振興事業団)

※時間は、いずれも午前9時30分から12時00分までです。場所は、センター2階会議室です。

☆ 文化財の窓 ☆

DNA鑑定 ⇒ 弥生時代のウリ科メロン仲間の果実

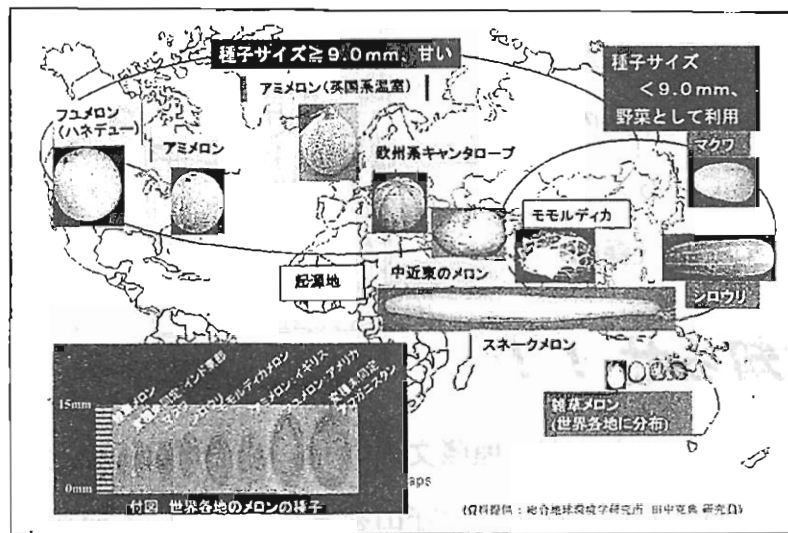
2006年10月、下之郷遺跡の弥生時代中期（紀元前2世紀）の環濠から、全長10cmほどの丸みのある植物遺体が発掘されました。外見がヒョウタンのようなので、京都市にある総合地球環境学研究所の佐藤洋一郎教授に、DNA分析で種類を鑑定していただいた結果、この植物遺体がメロン仲間の果実であることがわかりました。また、同時に放射性炭素（C14）による年代測定の結果、2120±40年前とわかり、弥生時代の遺物であることが確かめられました。メロン仲間の種子は、日本各地の遺跡から見つっていますが果実の出土例はほとんど無く、当時の食文化を探る上で大変貴重です。また、メロン仲間は、もともと日本に無かったものですので、どこから伝えられたのか、また、どのように栽培されていたのか興味が尽きません。この果実は、地下約1.2mの環濠の中に埋もれていたのですが、空気から遮断されて酸化せず、地下水の中で一定の温度に保たれていたため、2100年間保存されてきたと思われます。



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

DNA分析によって明らかにされる栽培メロンの伝播経路

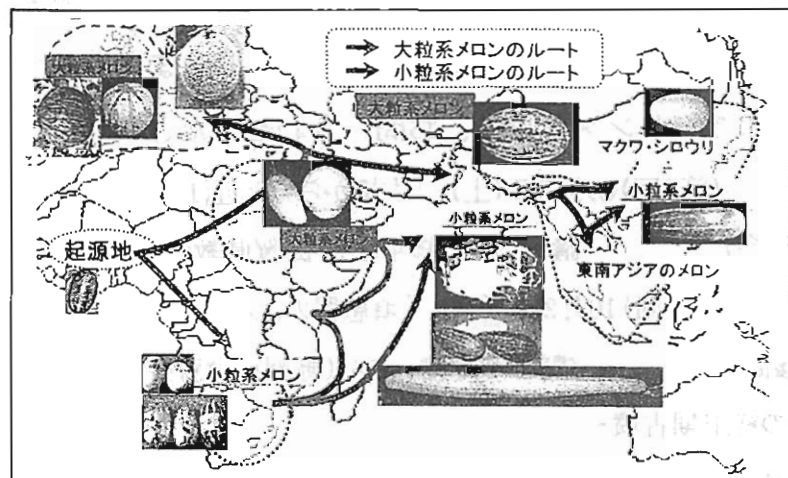
アフリカを起源とするメロンには、中近東から欧米へ伝わりそこで成立したメロンと、中近東から



世界各地に分布するメロン

インドを經由して東アジアの中国、韓国および日本に伝わったアジア固有のメロンがあります。欧米由来のメロンは現在日本を席巻しているネットメロンやハネデューメロンです。他に、インドには果実の長いスネークメロンやモモルディカメロンがあります。つまり、欧米のメロンと東アジアのマクワ、シロウリ及び雑草メロンは一つの種、すなわちメロンなのです。

さて、「ウリ」についてですが、古事記、わくんのしおり 万葉集や和訓 ほそち 菜をみると「熟瓜」、ほそ 「保曾ち（蘇）知」、「瓜」と記載されています。これらは、すべてマクワのことであり、長い間日本では「ウリ」といえばマクワのことをさしています。なお、広辞苑で調べたところ、「ウリ類、特にマクワウリの果実」とありました。このことから、「ウリ」といえばマクワのことを指しています。日本に伝来したメロンについて歴史的にみると、古くから在来していたメロンは現生のマクワ、シロウリ及び雑草メロンであり、ネットメロンを代表とする欧米のメロンは明治以降に伝来したメロンです。



DNA分析によって明らかにされた栽培メロン

の多元起源と伝播経路 (資料提供：総合地球環境学研究所 田中克典 研究員)

(執筆協力：総合地球環境学研究所 田中克典研究員)